

1 学校教育目標

- 進んで学ぶ生徒
- 心豊かな生徒
- たくましい生徒

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な学習内容を重視し、確かな学力を身に付けさせる学校 ○よりよい社会を創造する主権者としての知識・資質・豊かな心を身につけられる学校 ○学校情報を適宜発信し、保護者・地域の人々と協働しながら教育を推進していく学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○学ぶ意欲と向上心を持ち、生涯にわたって前向きに生きようとする生徒 ○思いやりの心、命を大切に作る心、規範意識、連帯感、自己肯定感、平和を愛する心など豊かな心を持った生徒 ○基本的な生活習慣を身に付け、健康でたくましく生きようと実践する生徒
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒個々の能力を把握し、生徒の学力を向上させ、豊かな心をはぐくんでいく教師 ○教育公務員として使命と責任を自覚して、情熱を持って職務に努める教師 ○「地域にある学校」を意識し、地域や保護者と積極的に関わる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

〈学校〉

現状：創立時に掲げられた「礼儀正しくしよう」「学校をきれいにしよう」の実践に努めている。

学校行事や学年行事には、全生徒が真剣に取り組んでいる。

成果：学力向上に向けて、補充・補習教室を工夫・充実させることができた。

生活指導面では落ち着いてきている。

課題：①基礎学力の定着と向上。

②生徒を生かし、伸ばす指導の充実。

〈生徒〉

現状：純朴で明るい。美化活動やボランティア活動、部活動によく取り組んでいる。全体として、授業に臨む姿勢も意欲的になってきている。

成果：「伊興中でよかった」という生徒が80%以上。落ち着いた授業が展開でき、生徒間のトラブルも減少してきた。

課題：①学習の必要性を認識して、基礎学力の定着・向上に努めること。

②家庭学習の習慣化。

②凡事徹底

〈教師〉

現状：若手教師が多くおり、活気がある。生徒に寄り添って指導している姿が多く見られる。

成果：区の研修や小中連携研修、成果発表授業、授業見学週間の取り組み等によって、学習指導力の向上がみられた。

課題：①生徒が楽しく、意欲的に受けとなる授業力の向上。

②生活指導力の向上。

〈保護者・地域〉

現状：保護者や地域の方々には、創立以来本校に愛着を感じていただき、協力・支援体制が強い。地域の行事等に教師や生徒を招いていただき、生徒に活動の場を与えていただいている。また、開かれた学校づくり協議会委員の方には、全面的に協力していただいている。

成果：PTAの活動が活発に行われている。PTAと開かれた学校づくり協議会との連携が強まってきている。おやじの会の活動もより活発に活動しており、学校の協力者である。

課題：①学校、PTA、開かれた学校づくり協議会との連携を図り、地域に根ざした学校をつくる。

②保護者の皆様に、学校に足を運んでいただけるような教育活動を展開していく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H29	H30	R1	R2	R3
1	基礎学力の向上と定着	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成と基本的な生活習慣の確立	○	○	○	○	○
3	学校情報の積極的な発信と組織の強化	○	○	○	○	○

5 令和元年度の重点目標

重点的な取組事項－1		基礎学力の向上と定着							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
生徒の学習意欲を高めるとともに、基礎・基本を確実に身に付けさせ、学力向上と定着を図る		目標通過率56% 年度末プレテスト目標正答率60%		通過率 62.6% プレテスト52.3%		通過率の目標は達成できた。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確 認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

1 継続・改善	放課後補充学習	全学年 評定が2 から下の 生徒 数学・英語	月・火・ 木・金曜 日 放課後 30分 教科は 隔週で 交代	【指導体制】教科担任、学年所属 教員 【取り組みのねらい・目的】月曜 日に全生徒に対してテストを行 い、基準をクリアできない生徒に 対して火・木・金で補充を実施す る。次の月曜日にその生徒に対 してテストを行い、基準をクリア できない生徒に対してその週補充 を行い、金曜日に確認テストを行う。 【使用教材】プリント教材	始め、 中間 日、最 終日 のテ スト	2週目の終わ りにテストを 行い、生徒の8 0%が目標値 を通過する。	各回とも100%合 格させることが できた。	補充の時間は役割分 担を3つ（補充指 導・下校指導・部活 動準備見守り）に分 け、全校体制で行う ことで時間の確保に 努めた。適切な課題 設定、朝学習やコン テストとのリンクを さらに図っていく。	◎
2 継続	定期テスト 前質問教室	全学年 全教科	定期考 査の一 週間前、 各教科 で希望 生徒を 対象に 60分 程度で 質問教 室を行 う。	【指導体制】教科担任 【取り組みのねらい・目的】定期 考査の一週間前から、希望する生 徒を対象に補習を行い、学力の向 上を図る。 【使用教材】プリント教材	定期 考査	定期考査にお いて、各教科の 目標値を達成 する。	予定通りに実施し た。教科によって1 0～20人程度の参 加者があった。	普段質問のできない 生徒、比較的成績も 良く意欲のある生徒 と様々だったが、充 実した時間になった 教科が多い。目標値 を達成できなかった 考査があるので、計 画的な学習、質問教 室や補充教室の参加 を奨励していく。	○
3 継続	家庭学習	全生徒 全教科	毎日 (土、日 も含む)	【取り組みのねらい・目的】家庭 学習の習慣を身につけさせ、基礎 学力の定着・向上を図る。また、 学習ノートの優秀なものを展示・ 表彰する。 【使用教材】教科書・プリント	毎日 提出、 担任 が確 認を 行う。	未提出者に対 しては、担任を 中心に個別指 導を行う。	生徒アンケートで 「家庭学習が身につ いている」61%、 「平日の学習時間は 30分以下」64%、 「宿題・提出物はき ちんと出している」 79%	優れた家庭学習ノー トを張り出し、目標 にさせた。課題の出 し方、家庭学習のや り方指導に工夫をし ていく。	×

4 継続・改善	サマースクール	全学年 数学・英語 を中心に、 考査の結果を考慮し、国語、社会、理科も対象にする。考査の正答率60%未満の生徒は指名、および希望生徒。	夏休み 期間中 の7日 一日2 ～3時 間 一教科 50分	【指導体制】全職員および学習ボランティア 【取り組みのねらい・目的】教科担任を中心に、プリント学習を行い、複数の職員による理解が不十分な部分に対する個別指導を行う。 【使用教材】プリント教材、1学年数学は、勉強合宿の教材	最初に テスト 最終日 にテスト	最終日にテストを行い、参加生徒の80%が目標値を通過する。	1, 2年数学は最終日テスト合格者が60%弱だった。3年数学、1, 2年英語は100%合格。3年英語は80%合格。	指名・希望生徒ともに真面目に学習に取り組んだ。1, 2年数学はその後の補充教室でフォロー、3年数学は定期テストとリンクさせた。サマースクール前後の教育活動との連携をさらに図っていく。	○
5 新規	朝自習	全生徒 国語・数学・英語・社会・理科	毎日 登校後 8時20分～35分までの15分間	【指導体制】学級担任 【取り組みのねらい・目的】小問題による学力の補充を行う。問題終了後は読解力をつけさせるために自分で選んだ本の読書を行わせる。 【使用教材】プリント教材、本	定期考査	各考査後の結果により、各教科担任に学力の向上に結び付く、効果的内容を考えていく。	定期考査期間を除き、毎日取り組んだ。コンテスト期間は、朝自習、補充教室とリンクして取り組んだ。	朝学習の内容を定期考査の範囲に入れたり、放課後補充教室とリンクさせ再テストを行ったりするなど復習の機会とした。コンテストとのリンクなど、生徒に主体的に取り組ませる工夫をしていく。	○
継続・改善	コンテスト	全生徒 数学・英語	長期休業明け2回など	【指導体制】教科担任、学年所属教員 【取り組みのねらい・目的】基礎的な内容の習得。補充・補習教室とリンクさせ、個別指導を取り入れ、定着を図る。 【使用教材】プリント	実施日にテスト	課題の8割以上正解する生徒が80%以上。2回目まで補充実施。	1年数学の1回を除き、各教科、各回とも最終的に合格者が80%を超えた。	2・3年英語・3年数学では、授業の帯活動や放課後補充教室や朝自習とリンクさせ、定期的に実施。2年数学は、サマースクールとリンクさせた。改善を図る。	◎

新規・継続	少人数授業	全生徒 数学・英語	数学・英語のすべての学年で実施	指導体制】教科担任 【取り組みのねらい・目的】基礎的な内容の習得。 【使用教材】教科書・プリント等	授業観察	授業アンケートにおいて「教え方や説明がわかりやすかった」と答える生徒が80%以上	アンケートにおいて「教え方や説明がわかりやすかった」と答えた生徒は86%だった。	生徒の達成状況を見ながら適宜クラス替えや指導教員の交換を行い、学年生徒全体の把握や指導法の工夫・統一等を図った。さらに改善を図る。	○
-------	-------	--------------	-----------------	---------------------------------------------------------	------	------------------------------------------	------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------	---

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成と基本的な生活習慣の確立			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒自らよりよい学校づくりに参画し、いじめのない「笑顔あふれる学校」「学校に登校するのが楽しいと思える学校」をつくる		アンケートで「伊興中の生徒でよかったと思う」と80%以上の生徒が回答する	アンケートで「伊興中の生徒でよかった」と答えた生徒が89%、保護者が91%だった。	以下の各項目について今後とも改善を図っていく。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
人権への配慮と豊かな心の育成	「他の人を尊重し、いじめのない学校生活を送っている」と、生徒の80%以上が回答する	思いやりの心、命を大切にす る心、規範意識、連帯感、自己肯定感、平和を愛する心を、道徳の授業をはじめ「心の教育」「人権について考える教育」など全教育活動で育む。	生徒アンケートで、「他の人を尊重し、いじめのない学校生活を送っている」93%と回答した。	「心の教育」「人権教育」「日本文化」を全校で、「1年・環境」「2年・福祉」「3年・平和」教育を各学年で取り組み人権と心の教育に力を注いだ。継続する。	◎
生徒を生かし、伸ばす指導	アンケートで、学校生活に前向きな回答をする生徒が80%以上	教員が日常の生徒の様子に気を配り、情報共有に努める。様々な場面で生徒に役割、活躍の場を与え活動させる。	生徒アンケートで、「学校行事に一生懸命取り組んだ」95%「学年行事に一生懸命取り組んだ」95%「生徒会・委員会・係に意欲的に取り組む」82%と回答した。	「キャリア教育」「オリパラ教育」「部活動」「生徒会活動」を通じて、自己を生かし、将来を考える指導に力を注いだ。改善を続ける。	◎

凡事徹底	アンケートで、ルールや挨拶等について80%以上の生徒が前向きな回答をする。	挨拶、時間、TPOをわきまえた言葉遣いなど教員・生徒が考える当たり前のことについて指導を徹底する。PTAが週一回、生徒が毎日あいさつ運動を行うとともに、挨拶週間を年2回実施する。	「校則を守るようにしている」91%、「授業規律は守られている」86%「施設を大切に使っている」92%「授業道具などの忘れ物はない」84%「挨拶は進んでしている」82%「遅刻をしないで登校できている」87%と回答した。	PTAの協力を得て、具体的な方策は全て実施できた。委員会・学級活動・校外学習を通じて、生徒が主体的に取り組むことができた。継続する。	◎
------	---------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------	---

重点的な取組事項－3		教師の指導力向上と信頼される学校作り			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
教師の指導力向上と信頼される学校作り		アンケートで、80%以上の保護者が学校に満足していると答える。	「学校の教育方針や教育活動に満足している」と答えた保護者が通常級では75%、特別支援学級では100%だった。	以下の各項目の実施結果ポイントを向上させることで評価を上げる。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
教師の学習指導力の向上	「教え方や学び方に工夫をしてくれている」と生徒の80%が答える。	授業力向上に関わる小中連携研修、を年7回行う。全教員が年5回以上の授業研究に参加する。授業見学期間を設定し、全校体制で互いの授業を見学しあう。	「先生たちは教え方や学び方、教材教具の工夫をしてくれている」と答えた生徒は86%だった。	小中連携研修では、全教科全ての研究授業に講師を招き、授業研究を行うとともに、連携の意義に関する講演会を新たに取り入れた。また、全教員が共通して取り組める道徳の研究授業を行い、授業改善に努めた。継続していく。	◎
教職員集団の育成と組織力の向上	教育活動や対外的な対応に、保護者へのアンケートで80%以上が満足していると回答する。	組織内での報告・連絡・相談・確認を徹底する。管理職・主幹教諭・主任教諭による若手教師の育成を計画的に実施する。	保護者アンケートで「先生たちは組織的に協力しながら教育活動に当たっている。」81%、「学校は学校公開の取組に努力している」87%、「学校は教育方針、教育活動を保護者にわかりやすく伝えている」82%との回答を得た。	分掌や学年、行事の組織的運営をさらに図るために、各組織の運営改善と実践的なOJTを図っていく。	○

保護者、開かれた学校づくり協議会、地域と協働した信頼される学校作りとの協働	「学校は保護者や地域と一体になって教育活動を行っている」と保護者の80%が回答する。	開かれた学校づくり協議会・PTA・地域共同推進事業等を行い、学校・PTA・地域との連携を図る。各種たよりを定期的に発行する。保護者会、教育相談、協議会を計画的に実施する。	保護者アンケートで「学校は保護者・地域と一体となって教育活動を行っている」79%「PTA活動は活発に行われている」84%との回答を得た。	PTA・地域共同推進事業への生徒参加が倍増した。具体的方策の充実を今後も図っていく。	△
---------------------------------------	--------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------	---

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

今年度の成果と課題、解決の方向性は、上記各項目に述べたとおりです。今後とも教職員一同、「つま先を同じ方向に向けて」努力していきたいと考えております。

今年度新たに加わった取組について報告いたします。小中連携研究授業に、全教科講師の先生をお招きし、ご指導をいただきました。9年間を見通した視点などについて連携4校全教員で、講義をいただく機会を創りました。また、道徳の研究授業・研修会にも取り組みました。新学習指導実施に向けて、新しい教科道徳は全教員共通の研修課題であると考えます。引き続き授業改善に努めて参ります。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

「笑顔あふれる学校」「学校に登校するのが楽しいと思える学校」を目指し、生徒を第一に考える教育活動、人権に配慮し、個・集団ともに成長させる教育活動を推進してきました。様々な取組を行ってきましたが、その根本となるのは、「前向きの失敗を許容する環境」「風通しの良い教室・職員室」だと考えます。生徒自らよりよい学校づくりを考え、いじめのない「伊興中の生徒で良かった」と思える学校を、保護者や地域の皆さんと共に創っていきたく願っています。

伊興中学校の生徒たちは、この地域の子どもたちです。PTA役員をはじめとする保護者の皆様、おやじの会の皆様、地域の皆様、今後とも地域の学校伊興中を、どうぞ温かく見守り下さい。よろしくお願いいたします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

校長として皆様にお伝えしたいことの一つに、本校の教職員の人間性があります。私をはじめ、どの職員にも得意・不得意があります。完璧な人間は一人もおりません。しかし、「子どもを第一に考え、教育職員として一生懸命に働こう」とする意思には、疑いの余地はない、私はそう思っています。これからも成長する教職員集団でありたいと思います。お気づきの点があれば、遠慮なく叱咤と激励をいただければ幸いです。